

～豊かで余裕がある人生を送る為に～

セミオートで増やす 資産運用術

エクセレントホース株式会社 代表取締役

村居 孝美

Takayoshi Murai

ETF / 日経 225

インデックスの「自分ファンド」が
初心者でも作れる！

基礎から仕組みまでこれ一冊で丸わかり！

目次

第1章

老後2,000万円問題を「システムトレード」で解決しよう

1つで全部できるソフトを中心にした投資生活 6

- ◎ KENSHIRO-225でのトレード実績例
- ◎ トレードのルールを作れる
- ◎ 売買のタイミングを教えてくれる
- ◎ 資金管理が簡単にできる
- ◎ 動作が軽く、低スペックなパソコンやスマホでも動く

銘柄選びに迷わなくて良いインデックス投資 8

- ◎ 長期的には成長の期待あり
- ◎ 注目度が高くニュースも多い
- ◎ みんなが注目している銘柄で問題ない

2000万円問題を解決する10年複利運用 10

- ◎ 老後2000万円問題、どう思いました？
- ◎ 年間リターン35%で10年間複利で回すと？

第2章

いまさら聞けない 株式取引の基礎

株式投資とは企業の分割オーナーになること 12

- ◎ ビジネスを拡大したい企業の資金調達方法
- ◎ 株を買えば株主に、保有割合に応じて発言権

株主が得られる3種類のリターン..... 13

- ◎ 売買益
- ◎ 配当
- ◎ 株主優待

株を自由に売買できる証券取引所..... 15

- ◎ 上場銘柄は誰でも取引できる
- ◎ 代表的な上場銘柄の平均価格が日経平均株価

なぜ株価は変動するのか..... 16

- ◎ 業績が評価される
- ◎ 経済・金融政策で動く
- ◎ 世界的な事件で動く
- ◎ 機関投資家の売買で動く

第3章

インデックス投資が今人気なワケ (ETF取引とは)

「①投資信託」が「②上場されている」=ETF..... 19

- ① 投資信託とはみんなのお金を集めて運用するファンドのこと
- ◎ 複数銘柄のポートフォリオに投資
- ◎ インデックス型とアクティブ型
- ◎ 少額から投資ができる
- ② 上場されているので株と同じように売買可能
- ◎ 証券会社で売買できる
- ◎ 信用取引ができる
- ◎ 手数料は高くない
- ◎ チャート分析が有効
- ◎ アクティブなデイトレも可能

なぜプロのファンドに任せっぱなしがいけないのか 23

- ◎ 適切な撤退タイミングを知る術がない
- ◎ なかなか現金化ができない..... 23

第4章

資金効率が抜群に良い「日経平均先物」って何？

日本のスタメン企業の株価＝日経平均株価 24

- ◎ 日本の大企業の業績を表す
- ◎ 非常に注目度が高く日々ニュースで流れる
- ◎ 実際は比率が高い数社の影響が大きい

日経平均株価に投資するのが日経平均先物 25

- ◎ 日経平均株価に連動するように動く
- ◎ 株式市場が動いていない夜にも取引可能

日経先物の取引単位と必要な資金 26

- ◎ 先物とは？
- ◎ 値幅と損益を理解しよう
- ◎ 証拠金取引なので資金効率が抜群に良い
- ◎ 手数料が非常に安い

先物ならではの特徴を押さえよう 28

- ◎ 買いだけでなく売りからでもスタートできる
- ◎ ポジション保有の期限がある
- ◎ 実質的に倒産リスクはなく、価値がゼロになることもない

第5章

クールな資産運用が実現できる システムトレードってどんなもの？

システムトレードとは何か..... 30

- ◎ プログラム化できるロジックで繰り返し売買すること
- ◎ 市場の偏りを見つけることが目的
- ◎ 局地的な相場の予想はせず決まったロジックで繰り返し売買
- ◎ 売買を自動化しやすい
- ◎ ポートフォリオ運用が前提

裁量トレードとシステムトレードの違い..... 31

- ◎ 裁量トレードは職人
- ◎ システムトレードは監督

MT4との比較..... 33

システムトレードのメリット..... 34

- ◎ 相場に張り付かなくてOK
- ◎ 再現性を確保しやすい
- ◎ 高性能のパソコンは不要
- ◎ 利食い、損切りが自動実行される

システムトレードのデメリット..... 35

- ◎ 大相場に対応しなければいけない
- ◎ 短期的な売買には向いていない
- ◎ エキサイティングではない

第1章 老後2,000万円問題を「システムトレード」で解決しよう

1つで全部できるソフトを中心にした投資生活

KENSHIRO-225という1つのソフトだけで、多角的にシステムトレードを行うことができます。このソフトでできることを紹介していきます。

◎ KENSHIRO-225でのトレード実績例

まずはKENSHIRO-225でシステムトレードを構築し、運用シミュレーションした場合の成績を見てください。



全体リスク設定	9.6%
最低運用資金	2,243,255
余裕資金	0
合計運用資金	2,243,255

これは、とあるKENSHIRO-225 (ETFを運用) のシミュレーション結果です。

2016年から現在まである設定で運用したとして、405万6800円の利益が出ており、そのために必要な資金は224万円という結果になっています。

もちろん運用益や必要な資金は、その人の目標とする利益や達成期間、使える資金や時間、体力や性格により違ってきます。とはいえ、KENSHIRO-225には、そしてシステムトレードにはこれくらいの爆発力があると思っていただいて構いません。

◎ トレードのルールを作れる

KENSHIRO-225では、利益が出ることが期待できる、トレードのルールを作ることができます。

■ 移動平均 (MA)

本日の 日経 の 始値 が 本日を含まない 過去 日間の 日経 の 始値 平均(MA) 超 である

本日の 日経 の 始値 が 本日を含まない 過去 日間の 日経 の 始値 平均(MA) 超 である

本日を含まない 過去 日間の 日経 の 始値 移動平均(MA)が、本日を含まない 過去 日間の 日経 の 始値 移動平均(MA)から + % 超 である

本日を含まない 過去 日間の 日経 の 始値 移動平均(MA)が、本日を含まない 過去 日間の 日経 の 始値 移動平均(MA)から + % 超 である

この際にプログラムの知識は不要で、日本語の管理画面からいろいろな売買条件を組み合わせてテストすることで、継続的に通用する売買ロジックを構築できます。

また販売サイト、トレセン+ (<https://toresen-plus.com/>) で、すぐに使える売買ロジックのアイデアを購入することもできます。

◎ 売買のタイミングを教えてくれる

KENSHIRO-225では、作成したロジックが相場に適合すると、売買のシグナルが出たことを教えてくれます。

基本的に朝と夕方の1日に2回、そのロジック通りに証券会社の画面から発注をするだけで、システムトレードを実行することができます。

また、シグナル通りに自動売買をしてくれる外部システムも用意されています。

◎ 資金管理が簡単にできる

複数の売買ロジックをそれぞれのロット数で動かす場合、相場とかみ合わないときに一時的に減少する資金の目安が分かり、それに応じていくらの資金を用意すれば良いのかがひと目見て分かります。

システムトレードにかぎらず、どんな投資でもリスクを把握した上でのマネーマネージメントは非常に重要であり、それが簡単にできるのがKENSHIRO-225の強みです。

◎ 動作が軽く、低スペックなパソコンやスマホでも動く

KENSHIRO-225はブラウザ(インターネット閲覧ソフト)で作動するため、パソコンでもスマホでもタブレットでも、機種を選ばず動作します。

また多少スペックが落ちる古いマシンでも、ほぼ問題なく動作します。

シグナルはKENSHIRO-225の本体サーバ、売買は証券会社内のサーバで行われるため、パソコンやスマホが常に起動していなくても問題ありません。

銘柄選びに迷わなくて良いインデックス投資

KENSHIRO-225では、ETFと日経平均先物に投資できます。これらの仕組みや特徴はのちほどしっかり解説していきますが、まずは全体像をご紹介します。

◎ 長期的には成長の期待あり

日経平均は、日本の代表的な企業225社の株式の平均価格で、株価指数とも呼びます。

ETFは、上場されている投資信託で、株価指数などの指標と連動するように設定・運用されています。KENSHIRO-225で扱うものの多くは、日経平均、S&P500、NASDAQなど、主要国の株価指数と連動します。

こういった株価指数は、長期的な経済成長の期待に伴い、長い目で見れば上昇していく可能性が高いです。日本も米国も、株価を100年前と比較すれば、大きく値上がりしています。このような株価指数への投資を、インデックス投資と呼びます。

つまり、インデックス投資は、長期的に上昇していくことが前提であるため、長期買いを土台にした戦略の構築が有効です。

◎ 注目度が高くニュースも多い

日経平均やダウ(米国の株価指数)は、日々のニュースで最新価格が流れるように、非常に注目度が高いです。

ソフトバンクやアップルといった大企業の株価は、たしかに注目度が高いです。ですが、株価指数はそういった有名企業の株価を集め、ならしたもののなので、注目度はそれ以上といえます。

またそういった株価指数には、大抵銘柄の入れ替えがあります。業績が悪い企業を外し、業績が良い企業を組み入れることで、構成されている銘柄が常に優良な企業になります。これもまた、株価指数への投資の優位性につながります。

◎ みんなが注目している銘柄で問題ない

投資で成功するためには、ライバルたちに先んじて、これから大きく成長する銘柄を探し当てなければいけない、人と違うことをしなければいけない、と考えている方もいるでしょう。

もちろんこういった考え方も有効なのですが、値上がりを期待できる優良銘柄の発掘は絶対条件ではありません。それこそ日経平均やダウ、S&P500のような、誰もが注目しており、多くの投資家が取引をしている銘柄の方が、一定の法則が通じることも多く、利益を出しやすいことも多々あります。

2000万円問題を解決する10年複利運用

◎ 老後2000万円問題、どう思いました？

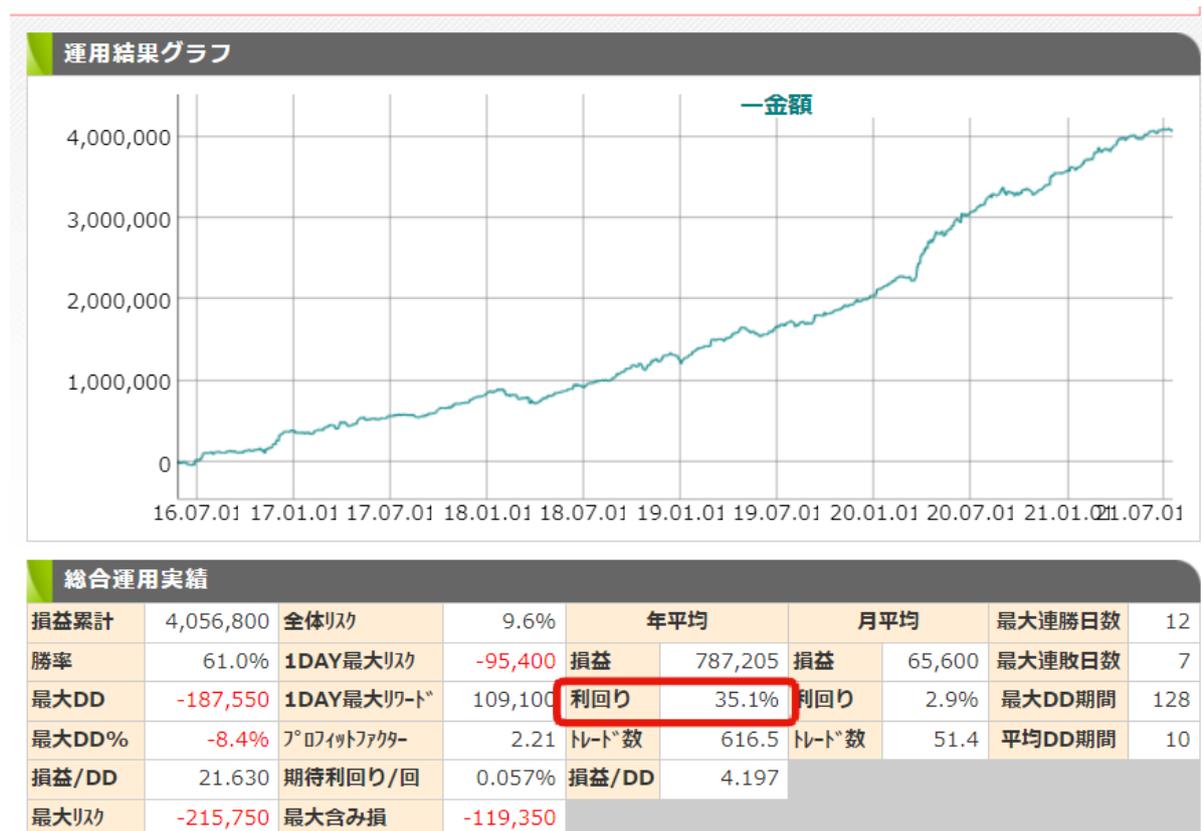
2019年6月、2000万円問題が突如クローズアップされたことは記憶に新しいです。「収入を年金のみに頼る老夫婦が、平均寿命まで生きたとき、年金だけだと合計で2000万円くらい不足する」というある試算が一人歩きし、センセーショナルに2000万円問題として報じられました。

よくよく読んでみると、必要とされるお金はあくまで1つの試算であり、生活費を少し見直したり、投資をすることで、回避する方法はいくつも考えられます。

◎ 年間リターン35%で10年間複利で回すと？

そもそも、老後までに2000万円貯めることは、決して難しいことではありません。1年で2000万円の運用益を得ることは、莫大な資金が必要になりますが、10年単位の期間でじっくり時間をかけて元本を増やしていけば、現実的な目標になり得ます。

こちらの、KENSHIRO-225のシミュレーション(ETF運用)では、年間平均の利回りが35.1%となっています。



 運用するお金 (元本)	<input type="text" value="100"/> 万円
 想定利回り (年率)	<input type="text" value="35.1"/> %
 運用期間	<input type="text" value="10年"/>
<input type="button" value="計算する"/>	

運用結果は**2,025.6**万円になります。

野村証券の公式サイトにある「マネーシミュレーター『みらい電卓』」
(<https://www.nomura.co.jp/hajimete/simulation/nyou.html>)で、資金100万円、年間の想定利回りが35.1%で複利運用すると、10年間で2025万円6000円にまで資産は増えます。

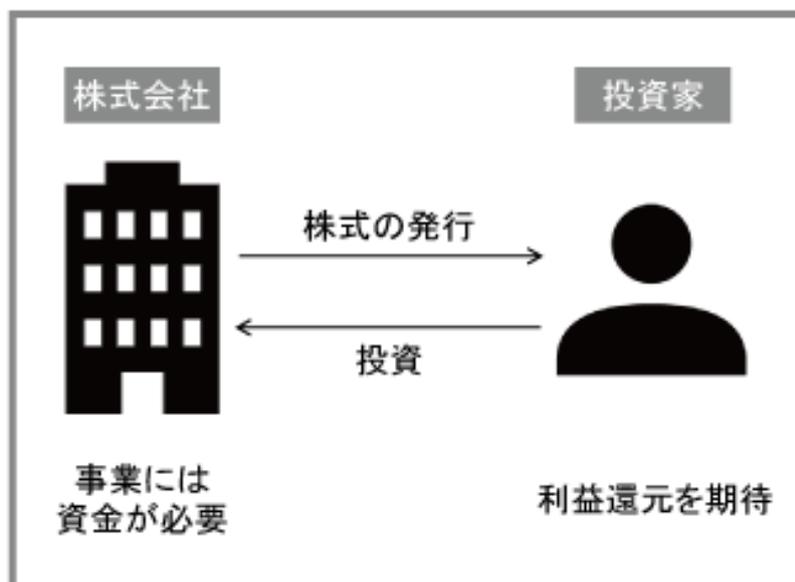
スタート時の資金が多ければ、必要な年数はもっと短くなりますし、運用をしながら労働の報酬を資金として追加していても、お金が増えるスピードは早くなります。

これはあくまで一例ですが、KENSHIRO-225を用いたシステムトレードを、計画的かつ長期的に丁寧に運用していけば、2000万円問題を必要以上に恐れることはないといえます。

第2章 いまさら聞けない 株式取引の基礎

株式投資とは企業の分割オーナーになること

◎ ビジネスを拡大したい企業の資金調達方法



株式会社とは、その会社の事業にお金を出して配当などのリターンを得ようとする株主(投資家)と、株主の出資によりビジネスを展開する会社で構成されます。

会社は事業を始めるため、あるいは大きくするための資金を得る方法として、株式を発行してそれを買ってくれる株主を募ります。

◎ 株を買えば株主に、保有割合に応じて発言権

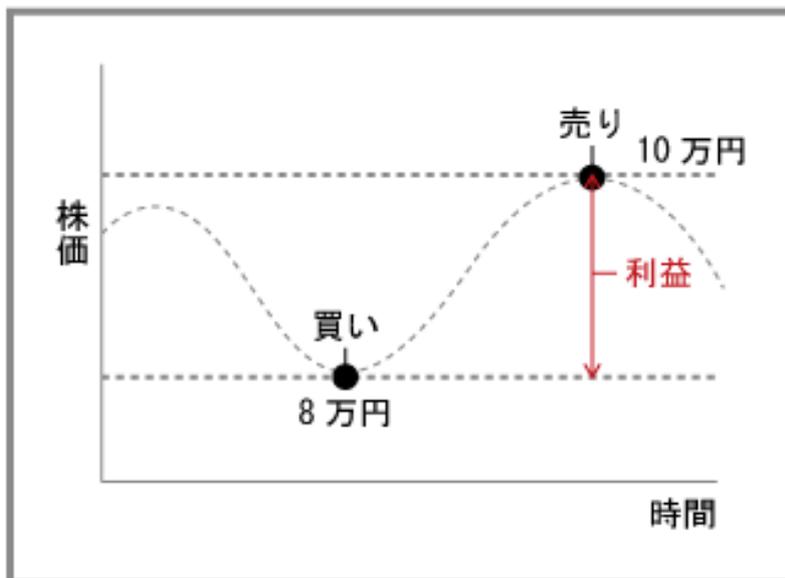
株主は、お金を出す代わりに会社の経営に影響力を及ぼします。

会社が株主に事業の結果を報告する株主総会に参加できますし、保有割合が高ければ議決権を持ち、会社の重要な決定ができるようになります。

つまり株式会社の株を保有するということは、その会社のオーナーになるということです。

株主が得られる3種類のリターン

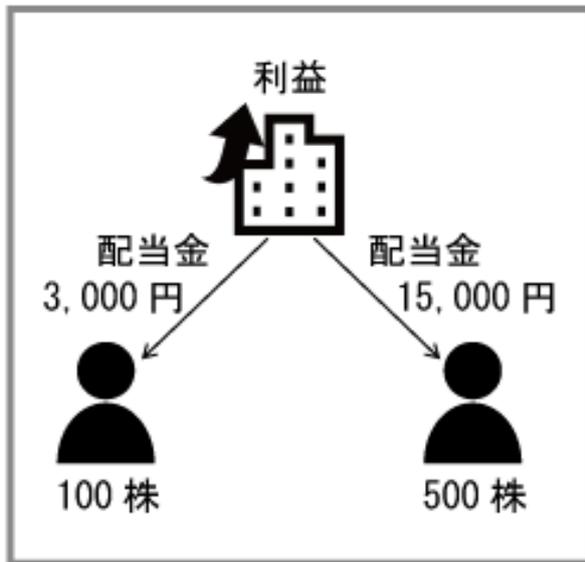
◎ 売買益



株式会社の株は、それ自体が価値を持ちます。業績が良く、値上がりしていきそうな会社の株を安く買って高く売ることができれば、その差額が売買益になります。

逆に買ったときより安く手放せば、その差額が損失になるため、リスクもリターンもしっかり認識した上で狙うべきです。

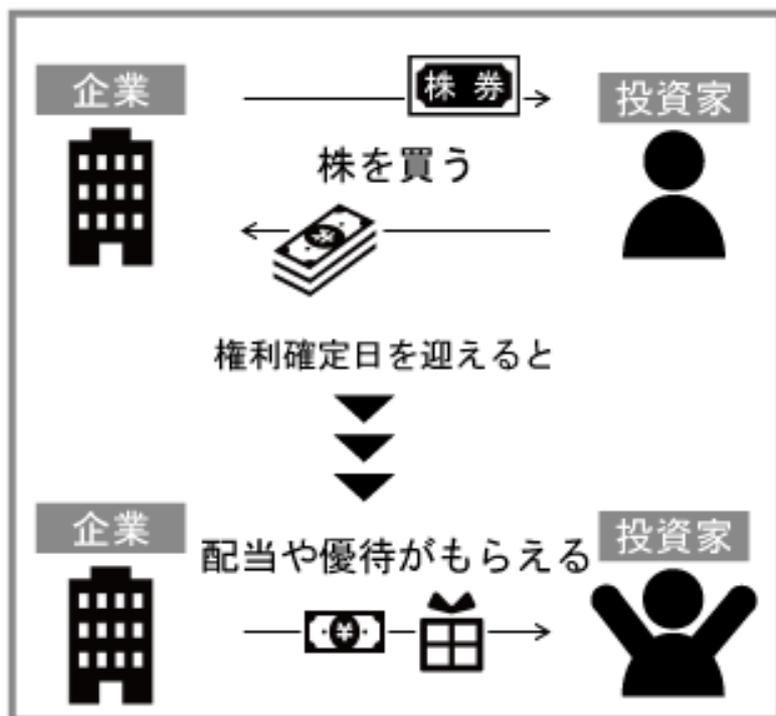
◎ 配当



保有している株数に応じて、定期的にお金が配られる仕組みで、大株主ほど配当額も多くなります。

保有しているだけで条件を満たすため、長期的な投資に向けたリターンです。

◎ 株主優待



例えば、外食のチェーンを展開している企業の株を保有していればお食事券がもらえるなど、株主としてその企業の商品やサービスを受けられます。

売買益や配当と比べると、おまけ的なリターンといえます。

株を自由に売買できる証券取引所

◎ 上場銘柄は誰でも取引できる

成長が見込めるので株主になりたいと思えるような会社が見つかっても、株を買えなければその願いはかないません。

そこで取引所を利用することになります。東京証券取引所を筆頭に、日本国内にはいくつかの取引所があります。

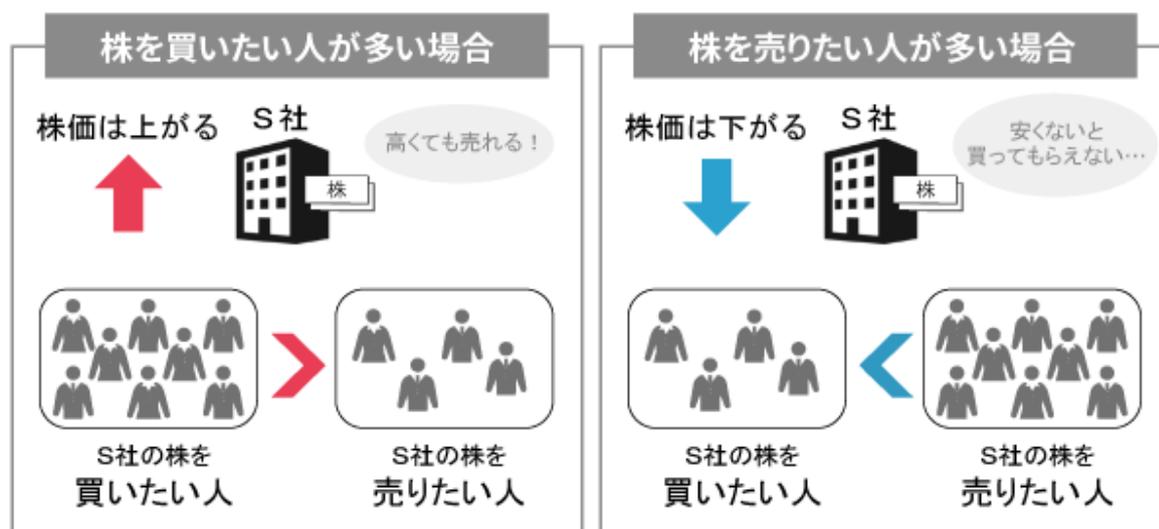
取引所に上場されている株は、取引所が動いている時間なら、いつでも売買ができます。

◎ 代表的な上場銘柄の平均価格が日経平均株価

2021年8月2日時点で、東京証券取引所に上場されている会社数は3786。これに地方市場に上場されている100社程度も加えると、およそ3900社の株式を取引所で売買できることになります。

こういった上場企業の中でも、代表的な225社の株価を平均化したものが、日経平均株価となります。いわば日本のスタメン企業で、日本の株式会社全体の業績や方向性を読み取ることができます。

なぜ株価は変動するのか



買いたい人と売りたい人が、同じタイミングで揃わないと売買は成立しません。買い手と売り手、両者の思惑が交錯することで、株価は常に複雑な上下動をしています。

◎ 業績が評価される

会社の成績が良ければ、つまり儲かっていたり、成長している会社なら株価は上がりやすいです。

会社の成績＝業績は、決算のタイミングで公表されます。

◎ 経済・金融政策で動く

個別の株価が動くのとは別に、国全体、あるいは世界全体の経済動向、金融政策で全体的に株価が上昇したり、下降したりすることがあります。

例えば2008年には、米国のリーマンブラザーズという大手投資銀行の破綻に端を発して、世界的な金融不安が表面化しました。いわゆるリーマンショックの発生で、翌2009年にかけて世界的に株安が進行しました。

この時期は全体的に株価が低迷し、日経平均も一時的に6000円台まで下落しました。

逆に2020年には、世界全体での株高がありました。新型コロナウイルス騒動で、3月には一時的に大きな株安となるものの、そこから金融緩和による長期的な上昇を迎えます。

金融緩和とは、簡単にいうと政府がたくさんお金をばらまき、株を買い支える状態のことで、相対的にお金の価値が下がり、株などの金融商品の価値が上がります。

この時期には、日本でも国民全員にお金が配られましたよね。また日本銀行によるETFの買い入れが盛んに行われ、世界全体で明らかな株高となりました。

このように、世界全体に強いお金の流れが生まれると、株価は全体的な上昇や下降を見せることがあります。

◎ 世界的な事件で動く

天災や疫病、戦争など、世界の人々にとって良くないことが起きると、株価が大きく下がるケースがあります。

その典型例が、2011年3月に起きた東日本大震災で、世界有数の経済大国日本が地震と津波により大打撃を受け、さらに原発での大事故もあり、一時的に大きな株安になりました。

2020年3月のコロナショックも同様です。このように世界的に不安が広がると、投資商品から資金を引き上げる動きが広まり、株価は下がり、円のような信頼性の高い通貨が買われます。

◎ 機関投資家の売買で動く

機関投資家、つまりプロのトレーダー達は、私たち個人投資家と比較してずっと大きな資金を動かしています。ですので、彼らがこぞって売買するタイミングでは、明らかに相場が一方向に動くことが多いです。

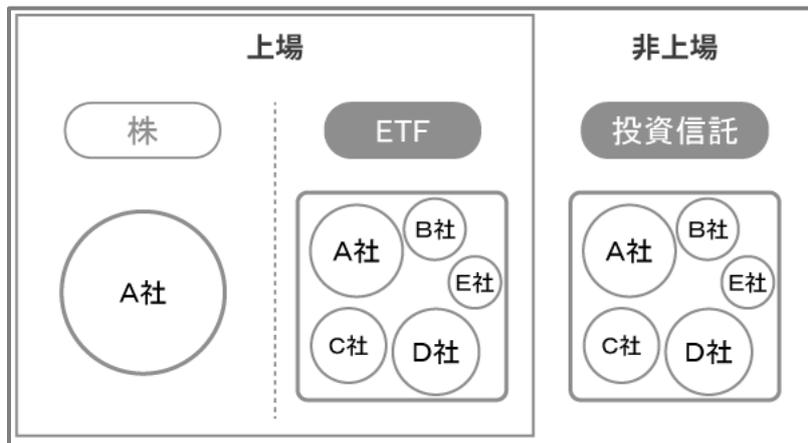
よくあるパターンとして、月末に売られるということがあります。月の最後の日には取引を確定させる動きがあるため、月末の日中には日経平均が下がる人が多いです。

第3章 インデックス投資が 今人気なワケ(ETF取引とは)

「①投資信託」が「②上場されている」=ETF

ETFとは、「上場投資信託」の略で、英語ではExchange Traded Fundとなります。

幅広い層に運用されている投資信託が、取引所に上場されているため、株式と同じようにいつでも売買ができるのがETFということになります。

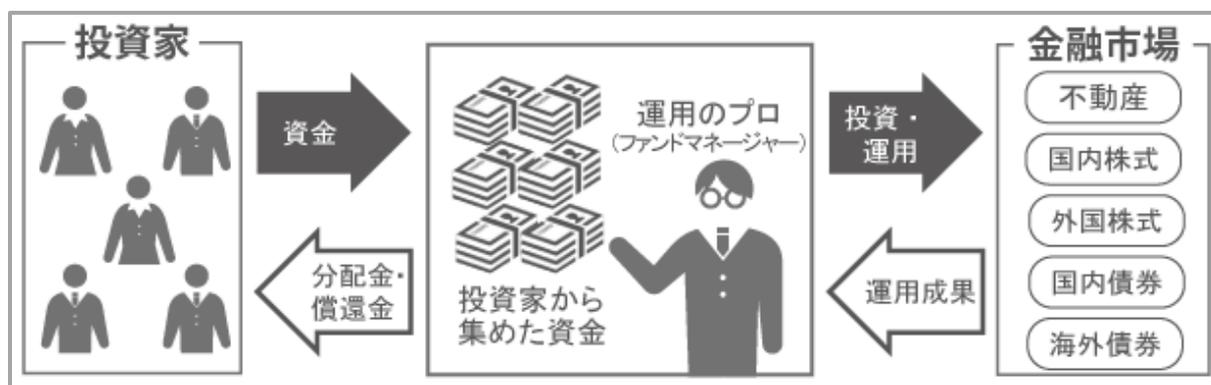


投資信託と、上場されていることについて、バラバラに勉強していきましょう。

① 投資信託とはみんなのお金を集めて運用するファンドのこと

◎ 複数銘柄のポートフォリオに投資

投資信託とはファンドとも呼ばれる金融商品で、たくさんの投資家から募った資金をプロが運用し、リターンを目指すものです。

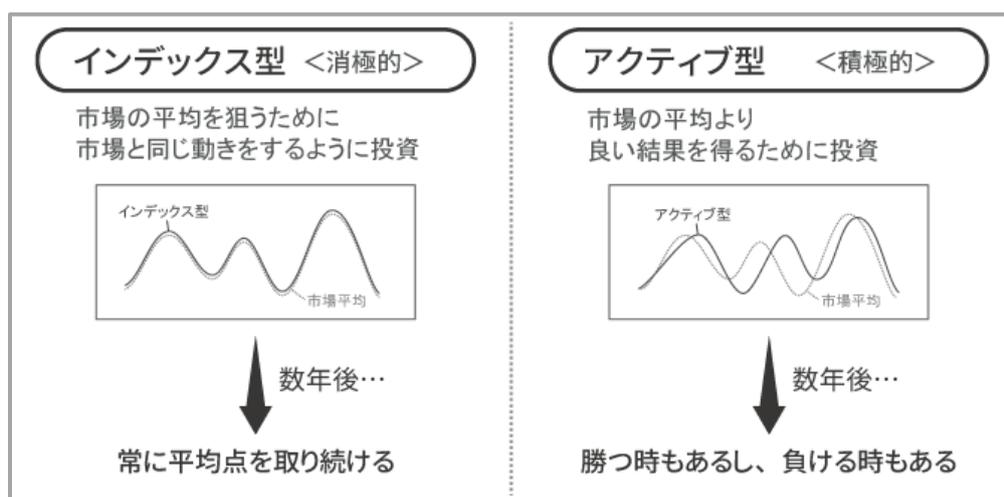


この際に運用されるのは、どこかの会社の株だったり、ある外国為替 (FX) の通貨ペアだったりというような、単一の金融商品ではありません。必ず複数の金融商品を1つにしたポートフォリオで運用されます。

つまり投資信託では、投資家側は銘柄選びをしなくて良く、なおかつバランスやリスクマネージメントが考慮された複数の銘柄の集合体が運用されます。

◎ インデックス型とアクティブ型

投資信託は、大きくインデックス型とアクティブ型に分類されます。



インデックス型は、主に株価指数(日経平均、ダウ、S&P500など)に連動する運用成果を目指します。株価指数は、日本だったり米国だったりの代表的な企業の業績を表すものですから、一国の企業業績全体に投資するポートフォリオといえます。

アクティブ型は、基準となるインデックス型以上の運用成績を目指す投資信託です。例えば日本の株なら、日経平均に単純に投資した場合以上の収益を目指し、独自の投資判断が行われることになります。

◎ 少額から投資ができる

ETFには少額から投資できるメリットがあります。ETFの単位は一般的に「〇口」で表され、銘柄によっては数百円から数千円で投資できるものがあります。

数万円程度の資金でも運用は可能です。

② 上場されているので株と同じように売買可能

	ETF	一般的な投資信託	株式
上場 / 非上場	上場	非上場	上場
取引場所	基本的に 全ての証券会社 (ネットでも可能)	販売会社 (商品ごとに異なる)	基本的に 全ての証券会社 (ネットでも可能)
取引可能時間	市場の 取引時間内	販売会社が 定める時間内	市場の 取引時間内
取引価格	市場価格 (リアルタイムで変動)	基準価額 (1日1回算出)	市場価格 (リアルタイムで変動)
信託報酬	低め (平均 0.38%)	高め (平均 1.08%)	なし

◎ 証券会社で売買できる

ETFは証券取引所に上場されているため、取引所が動いている時間なら個別株と同じように購入や売却ができます。

すでに個別株や先物などを取引した経験があるなら、スムーズに売買できると思います。

◎ 信用取引ができる

上場されているからこそそのメリットで、信用取引を行うことができます。

株式同様に約3倍のレバレッジがかけられるので、本来必要だった資金の約3分の1でそのETFを保有できます。

また、最大口数には制限がありますが、手元に持っていない状態でも売りから売買を開始できます（空売り）。

◎ 手数料は高くない

ETFは、一般的な投資信託より手数料が安いことが多いメリットも見逃せません。

投資信託では信託報酬という手数料が発生しますが、ETFの場合は投資家がこれを証券会社に支払う必要がありません。

また最近では、証券会社側がユーザーを集めるために、手数料を無料あるいは安くするキャンペーンを実施していることも多く、かなり低いコストでの取引が可能になっています。

◎ チャート分析が有効

ETFは投資信託ですが、株やFX、先物といったメジャーな投資商品とかなり近い感覚でトレードができます。

朝の9時から午後の3時までが取引時間で、証券会社のオリジナルツールや、TradingViewなどのソフトでチャート分析が可能です。

◎ アクティブなデイトレも可能

ETF、投資信託というと、一度買ったらずっと保有する長期投資をイメージする方が大半だと思います。

そういったロングホールドの投資もちろん有効ですが、もっと短いサイクルで売買を繰り返すことで、すでに解説したアクティブ型のように、ただ持ちっぱなしでいるより高いリターンを狙うことも可能です。

これもまたETFが上場されている投資信託だからこそ。いつでも売買できますし、手数料も安いので短期的な売買が成り立ちます。

そしてこういった特性を利用して、KENSHIRO-225ではETFのシステムトレード、自動売買が可能です。

なぜプロのファンドに任せっぱなしがいけないのか

◎ 適切な撤退タイミングを知る術がない

ここまで、ETFならではのメリットを中心に解説してきましたが、「それでもやっぱりプロにお任せしたほうが楽だし、確実なんじゃない？」と思う方もいると思います。

もちろんプロの投資信託に預けっぱなしにするのも有効な投資手法であることは間違いありません。ですが、いくつかデメリットもあるのです。

まずはどのタイミングでやめれば良いか分からないこと。株価の上昇を狙う商品の場合、株高の局面では資産が増えていきますが、株安になる局面は必ずやってきます。一時的かもしれませんが、場合によっては5年、10年と株安になる相場もありえます。

そういった局面では一度運用を停止して現金化し、別の商品に投資をした方が効率が良いですが、完全に人任せにしていると、そういったタイミングをはかる術がありません。

◎ なかなか現金化ができない

投資信託の場合、運用を停止してもすぐに手元に現金が戻ってくるとは限りません。証券会社や銀行などで対面で購入した場合、店頭での続きが必要になり、お金が戻ってくるまでにタイムラグがあります。

これがETFの場合なら、撤退は迅速、戻ってきたお金はそのまま口座の取引資金となります。

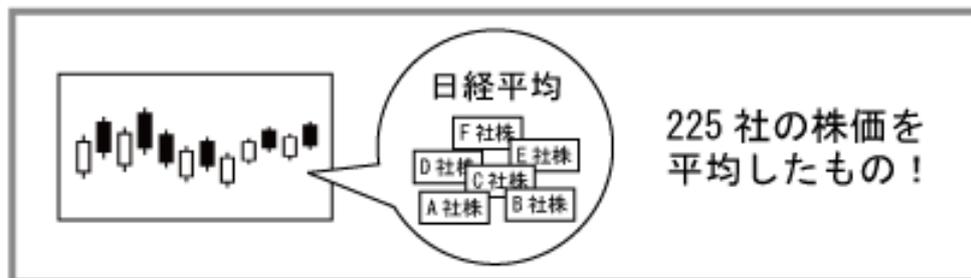
第4章 資金効率が抜群に良い 「日経平均先物」って何？

日本のスタメン企業の株価＝日経平均株価

◎ 日本の大企業の業績を表す

ETFだけではなく、KENSHIRO-225では日経平均先物も取引することができます。

4000弱の銘柄が上場されている国内株式市場の中で、特に業績が良い優良な大企業225社の株価を平均化したもの日経平均です。



いってしまえば日本の株式会社のスタメンであり、国内の企業の全体的な業績を表すものと考えて良いでしょう。

◎ 非常に注目度が高く日々ニュースで流れる

テレビをつけていれば、数時間に一度はその日のニュースで株価がいくらであるかと報じられるはずです。その際には個別の企業名ではなく、日経平均株価が伝えられます。

日経平均だけで、日本国内の大まかな株価の動向は見えます。そのため、株式以外を取引している投資家や、国外の投資家からも注目を集めています。

◎ 実際は比率が高い数社の影響が大きい

日経平均は、日本の代表的な企業225社の平均株価ですが、単純に全部を足して225で割った価格というわけではありません。企業ごとに大きな影響の差があります。

証券コード	銘柄名	構成率
9983	ファーストリテイリング	9.70%
8035	東京エレクトロン	5.91%
9984	ソフトバンクグループ	5.17%
6367	ダイキン工業	3.32%
6954	ファナック	3.21%

※2021年8月11日時点

ファーストリテイリングが1割弱を占め、上位5社が日経平均全体の27%ほどの割合になっています。つまり、影響度が高い特定の企業の株価が動けば、日経平均も変動するということになります。

日経平均株価に投資するのが日経平均先物

◎ 日経平均株価に連動するように動く

ここまでは、日経平均の概要について解説してきました。

この日経平均とほとんど同じような値動きになる投資商品が日経先物です。両者は別々の存在ですが、日経平均先物は日経平均の価格をほぼリアルタイムで追いかけるため、連動しているといえます。

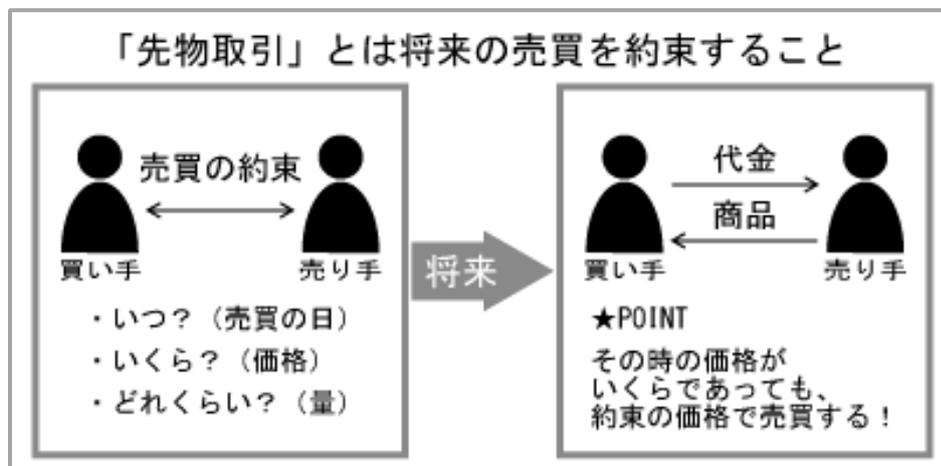
◎ 株式市場が動いていない夜にも取引可能

日経平均先物の最大の特徴は、証券取引所が動いていない、日本時間夕方以降の時間帯でも取引ができること。日本の株式が動いている時間に合わせた8時45分から15時15分の時間帯だけでなく、16時30分から翌朝の5時30分までの時間帯も取引ができます。

この時間帯は、本家の日経平均は動きませんから、昼間とは違う戦略が必要になります。

日経先物の取引単位と必要な資金

◎ 先物とは？



日経平均先物とは、日経平均を対象とした先物取引です。先物とは、「ある商品を、将来のあるタイミングで、ある価格で購入する権利」をやりとりする取引なのですが、この説明は非常に分かりにくいと思います。

正確な意味はいずれ知ればよいとして、今の段階では「FXやCFDとよく似た、現物を保有せずに価格を取引する投資である」と覚えておけば問題ありません。

FXやCFDの取引では、実際に対象となる商品を保有しません。その取引をしたことにして、発生した利益や損失を、自分の口座に対して適用します。安く買って高く売れば、その差額分だけ口座残高が増えますし、高く買って安く手放せば、その差額分だけ口座残高は減ります。

また、レバレッジという資金効率を良くする仕組みがあるため、実際にかかるより少ないお金で、その商品を保有することができます。

先物というと、一歩間違えると大金を失うようなイメージを持っている方も多いかもかもしれませんが、実際は国内外で広く普及しているFXやCFDとよく似た構造の金融商品であるといえます。

◎ 値幅と損益を理解しよう

日経平均先物には、ラージとミニという2種類の取引単位があり、ミニはラージの10分の1のロットになります。

日経 225 ラージ
・ 日経平均株価指数の「1000 倍」 ・ 呼び値は 10 円
日経 225 ミニ
・ 日経平均株価指数の「100 倍」 ・ 呼び値は 5 円

日経平均が100円動いた場合の損益は以下の通り。

ラージ:100,000円(日経平均の1000倍)

ミニ:10,000円(日経平均の100倍)

例1) 日経平均先物が30,000円のときにミニを1枚買い、30,100円のときに決済すると、10,000円の利益。

例2) 日経平均先物が30,000円のときにラージを1枚売り、29,900円のときに決済すると、100,000円の利益。

※いずれも手数料は考慮していません

◎ 証拠金取引なので資金効率が抜群に良い

すでに解説した通り、FXやCFDと同様にレバレッジがかけられるのが日経平均先物の強みです。実際に商品を保有する必要はなく、証拠金と呼ばれる保証金を証券会社に差し出すことで取引が可能になります。

2021年8月10日現在、日経平均先物のミニを1枚保有するための証拠金は126,000円。この日の終値は28070円です。日経平均先物ミニ1枚は、実際の日経平均の100倍の価値になるため、約280万円分の取引となります。これを12万6000円の証拠金で取引ができるため、レバレッジは約22倍となります。

これはつまり、実際にかかるお金の22分の1でトレードができていることになり、国内のFXとほとんど同じレベルの資金効率となります。

◎ 手数料が非常に安い

日経平均先物は、非常に手数料が安い金融商品です。主な証券会社の、ミニ1枚の片道手数料は以下の通り(2021年8月11日時点)。

岡三オンライン証券:44円

auカブコム証券:41.8円

SBI証券:38.5円

新規保有時、決済時にそれぞれ手数料がかかりますので、取引が完結すると上記の2倍の手数料がかかります。とはいえ、約280万円分の価値があるミニ1枚を、100円未満の手数料で保有できるため、取引コストは非常に安いといえます。

先物ならではの特徴を押さえよう

◎ 買いだけでなく売りからでもスタートできる

FXやCFDと同様に、最初から売りで取引がスタートできるため、下降の局面でも利益を狙いやすいです。

これは、原則的に買いからしかトレードをスタートできない、現物取引とは決定的に異なる点です。株価が暴落している局面でも、売りトレードを上手く使いこなせば、大きな利益を得る可能性を秘めているといえます。下がる時に売りの注文を仕掛けて、下がり終えたら決済をするという方法です。つまり、下がる方に予測をして下がった方に仕掛けるということです。この場合、下がった価格の差額が利益となります。

◎ ポジション保有の期限がある

FXやCFDと違う点として、先物には保有期限がある点があげられます。SQ日と呼ばれる最終決済日があらかじめ決められていて、この日になると何があってもポジションは強制決済されます。

そのため、どちらかというと先物は短期トレードに向いています。

毎月第2金曜日にSQ日が設定されており、その月で決済期限を迎える状態を限月(げんげつ)と呼びます。

◎ 実質的に倒産リスクはなく、価値がゼロになることもない

先物には倒産のリスクが実質的にないこともメリットといえます。個別株ならその企業が倒産したり、上場をやめれば株価は最終的にゼロに等しくなりますが、日経平均先物のような株価指数の場合、その可能性はゼロといってよいでしょう。

日本や米国のような先進国の、代表的な企業の株価を集合させたものが日経平均やダウなどですから、これらが消滅したり価値がなくなることは、経済自体の崩壊を意味します。そうなってしまえば投資どころではない社会になっているので、経済や金融の仕組みがある限り、株価指数の投資を続けることができます。

第5章 クールな資産運用が実現できる システムトレードってどんなもの？

システムトレードとは何か

◎ プログラム化できるロジックで繰り返し売買すること

システムトレード(シストレ)にはいろいろな意味合いがあるようですが、KENSHIRO-225では「プログラムできる売買ロジックで運用すること」と定義付けています。

売買ロジックとは、売買のルールのことです。こうなったら買い、こうなったら売りという条件が事前に決まっています。

プログラムできるとは、曖昧な要素が一切なく、完全に売買の条件を言語化できるということです。

◎ 市場の偏りを見つけることが目的

それでは、どういった条件で売買のロジックを作るのか。狙うのは市場の偏りです。

基本的に、相場は多くの時間帯はランダムに値動きをしています。これから上がるか、下がるかは分からないのが普通です。

ですが、時たま、買い、あるいは売りが優勢になるタイミングがあります。その原因は様々ですが、こういったタイミングを狙った売買ロジックを作ることによって、利益が期待できます。

こういった偏りを見つけるためには、仮説と検証のサイクルをひたすら繰り返すことになります。仮説は売買のアイデア、検証はバックテストです。

◎ 局地的な相場の予想はせず決まったロジックで繰り返し売買

市場の偏りに対応した売買ロジックを作ることができたら、淡々とひたすら繰り返すことで、収益を狙っていくことになります。

システムトレードでは、相場の目先の上げ下げを予想し、それについていくようなトレードはしません。あくまで優位性のあるロジック、統計上お金が増えていく期待があるロジックの取引を繰り返し、運用益を得ることが目的です。

◎ 売買を自動化しやすい

言語化された売買ルールで運用するわけですから、自動売買にしやすいのもシステムトレードの特徴です。

アドリブ要素がないので、事前にプログラム化することで、自動的な運用も可能です。

◎ ポートフォリオ運用が前提

優れた売買ロジックであっても、一時的に連敗したり、資産が減る時期は必ずあります。そういったドローダウンの局面を、特徴が違うロジックを組み合わせることで、回避する、あるいはダメージを少なくすることを狙うのが、ポートフォリオの考え方となります。

システムトレードでは、優れたロジックを作ることも重要ですが、相性の良いロジック同士を組み合わせることも同じくらい大切です。

裁量トレードとシステムトレードの違い

◎ 裁量トレードは職人

システムトレードの対義語的存在が、裁量トレードです。

裁量トレードはそのときの相場の状況に合わせて売買し、相場の動きをアクティブに追いかけていくトレードです。

売買はある程度ルール化されていることもありますが、そのときの相場の動きに合わせたアドリブが入ってくるため、個人能力の影響が良くも悪くも大きいです。

こういった特徴から、裁量トレードは職人芸といえるでしょう。能力が高い人なら爆発的な利益を得ますが、誰もが同じようにできるかは別の話で、再現性は高くはありません。職人芸を簡単に真似できないのと同じです。

◎ システムトレードは監督

システムトレードは、あらかじめ作ったいくつもの売買ロジックをうまく配置して、チーム全体で利益を取りに行く資産運用です。

売買ロジックはスポーツチームの選手のようなもので、それぞれに特徴、長所、短所があります。それらを上手に組み合わせて補い合いながら、全体での成功を目指すことから、監督のような役割を投資家がやり遂げる必要があります。

あるいはいろいろな社員がいる企業で、会社全体で利潤を追求する経営者のようなスタンスであるともいえます。

	裁量トレード	システムトレード	自動売買
売買判断	自身の判断で売買	最初に条件を設定し、条件に到達したら機械的に売買	売買プログラムを作成し条件に到達したら機械的に売買
売買する手段	手動	手動・自動(プログラム)	自動(プログラム)
注意点	感情が入りやすい	感情が入る可能性がある(手動) システムの稼働をチェックする必要あり(自動)	システムの稼働をチェックする必要あり

MT4との比較

	MT4のEA運用	KENSHIRO-225
対象の銘柄	FX、CFD	ETF、日経平均先物、FX(開発中)
運用の環境	MT4対応の証券会社に口座を開設後、EA(自動売買のプログラム)を入手し稼働させる	KENSHIRO-225内で売買ロジックを作成し、対応している口座で手動売買。あるいは専用の自動売買サービスを導入し、売買を自動化
どういう運用？	EAがプログラム内容通りに売買	季節性に基づいたシグナルに従って売買
得意な相場、苦手な相場	EAのロジックにより、相場の得手不得手が異なる	相場に合わせて複数のロジックを作成、併用するので、対応できない相場は原則的にない
売買自動化	できる	できる
売買ロジックの把握	基本的にできない	できる
売買ロジックの自作	高度なプログラミング技術が必要	プログラム知識なしでできる
損切り	EAが自動実行	ロジックに決済条件は必ず組み込まれる
売買ロジックの調整	一部できる	できる
日本語での操作	一部できない	できる
バックテスト	できる	できる
ポートフォリオのバックテスト	できる	できる
短期売買	できる	向いていない
パソコンの電源オフ	できない(VPSを使えばできる)	できる
最低資金の目安	10万円くらい	100万円くらい

KENSHIRO-225と近いことができる資産運用として、FXの人気プラットフォームであるMT4のEAを使った自動売買があげられます。

MT4はEAの普通は中身を知ることができないので、売買ロジックの改良や調整ができません。対してKENSHIRO-225は売買ルールが明確なため、相場に合わせて調整できます。

また、EAを作るためにはプログラミング技術が必要ですが、KENSHIRO-225の場合は日本語で条件を設定するだけで売買ロジックを組むことができます。

ただ、KENSHIRO-225はスキャルピングのような短期的な売買には向いていません。もっと長い時間軸でのトレードを前提に設計されています。これに対してMT4はチャート上のインジケーターを売買の条件にできるため、分単位、秒単位の自動売買も可能です。

システムトレードのメリット

◎ 相場に張り付かなくてOK

事前に決まったルールで取引をするのがシステムトレードです。ほとんどのルールは前日までの相場の結果で作られているため、目先の値動きで方針がコロコロ変わることはありません。

せいぜい利食いや損切りの価格が指定されているくらいで、これも指値や逆指値を使えば自動化できます。

◎ 再現性を確保しやすい

その場その場での人間の判断は必要ないため、同じルールなら誰がやっても原則的に同じ結果になります。

こういった再現性が高いメリットは、すでに結果を出している上級者やプロの戦略を取り入れられることにつながります。

◎ 高性能のパソコンは不要

売買ロジックを作る検証や、売買シグナルの表示、自動売買などはパソコンのブラウザで稼働するので、特別な高スペックマシンでなくても問題ありません。

またシグナル表示、自動売買はユーザー側の環境で行われるわけではないので、パソコンの常時稼働は不要です。

◎ 利食い、損切りが自動実行される

裁量トレードでは非常に難しいとされている相場からの撤退が、あらかじめルール化されているので簡単に行えます。自動実行も可能です。

どのタイミングで相場から降りるべきか、迷うところがないのでメンタル的な負荷も少ないです。

システムトレードのデメリット

◎ 大相場に対応しなければいけない

2020年3月に突如発生した、新型コロナウイルスの影響による暴落相場のような、大相場が発生するとそれまでに通用していた売買ロジックが機能しなくなることが多いです。

こういった場面では、それに対応するためにポートフォリオを組み直したり、ロジックの稼働を停止したりする判断が求められます。

◎ 短期的な売買には向いていない

すでに解説したように、短いサイクルでガンガン取引を繰り返すスタイルは、KENSHIRO-225では実行不可能です。そういうのが好みの方は、MT4のスキャルピング型EAを運用すると良いでしょう。

◎ エキサイティングではない

これがもっとも重要かもしれません。システムトレードは、テスト結果が良かった売買ロジックを淡々と動かし続け、勝ったり負けたりしながら着実な資産増を狙う運用です。

上手に運用すれば効果的な資産運用にはなりますが、そこにエンターテインメントやエキサイティング要素は一切ありません。ドラマチックなトレードを求める人には向いていないのです。ですが、監督

や経営者のようなポートフォリオ(チームの配置)や売買ロジック(選手)の育成をする楽しみがあります。スポーツや将棋、経営が好きな方には向いていることでしょう。